

平成 29 年度 自己評価表

平成29年 最終評価 鳥取県立境高等学校 平成30年3月23日

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p> <p>21世紀に生きる社会人として、生きる力と豊かな人間性を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路を実現する。</li> <li>切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る。</li> <li>地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。</li> </ul> <p>校訓 「文武両道」「質実剛健」</p>	<p>今年度の 重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的生活習慣の確立とコミュニケーション力の向上</li> <li>2. 学ぶ姿勢を確立して目指す進路を実現</li> <li>3. 部活動の振興を基軸としたチーム境高意識の高揚</li> <li>4. 人としての教育を重視し命の教育を充実</li> </ol>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初		評 価 結 果 (最終評価)		
		現状 (28年度の実績から)	目標 (29年度の目指す姿)	達成状況	改善方策	
1. 基本的生活習慣の確立とコミュニケーション力の向上	○規律ある高校生活を送ること。 ○自他を大切にすること。 ○ケータイ・スマホ等のSNSの使用による生徒間のトラブルが発生しないこと。	○基本的生活習慣の確立など規律ある高校生活が定着してきており、服装指導も徹底している。 ○ケータイ・スマホ等のSNSの安易な使用が見られ、生徒間のトラブルに発展するケースも見られる。  ※挨拶・服装などだけ始める学校生活ができた 生徒96.3% 教職員78.3% ※自他を大切にできた 生徒96.7% 保護者86.6% 教職員56.8%	○挨拶の励行、服装・清掃指導等の徹底 ○人間性やコミュニケーション能力の向上 ○はじめある生活態度の確立 ○自他を愛し、人権を尊重する意識の高揚 ○情報モラル教育の充実 ○SNSの安易な使用によって相手のことを慮らない行為の根絶	○生徒の自主活動を促し、生徒活動の充実を図る。 ○服装・髪型・挨拶等について生徒の自覚を高め、服装再指導による個別指導の徹底を図る。 ○交通規則(法規)遵守、携帯電話・スマホ等使用上のモラルの向上を図る。 ○整理整頓、貴重品管理等、日常の生活意識の向上を図る。	○挨拶・服装・髪型・清掃への取組など基本的な生活習慣は定着して、はじめのある学校生活ができている。ただし、挨拶は運動部の生徒を中心にできているが、女子の挨拶は改善が必要である。 ○学年集会を幾度も行い、本校生徒のあるべき姿について考えさせ、生活態度・モラル向上を図ることができた。 ○ケータイ・スマホ等の使用についてはトラブル事案が減らないので、引き続き指導していく必要がある。  ※挨拶・服装などだけ始める学校生活ができた 生徒97% 教職員89.7% ※自他を大切にできた 生徒97% 保護者90.7% 教職員48.7%	○「チーム境高」のもとにクラス担任だけでなく、教科担当の教員も含め、学年団、さらには全教員で生徒を育てるつもりで生徒指導を行うことを徹底する。 ○校歌・応援歌練習の中で礼法指導をするなど、生活全般の規律を身に付けさせる場面を増やす。 ○SNS上でのトラブルは必ず起こるものという認識を持って保護者を含めて研修や講演の機会を増やすとともに、トラブルに巻き込まれたときに相談できる窓口を設けたり、紹介したりする必要がある。
	○主権者教育、消費者教育、環境教育などの取組をとおり、社会人講師(地域で活躍する大人など)の話を聞く機会を生徒ひとり当たり3年間で10回以上設定すること。 ○環境改善や校内美化に対する意識を高めること。	○生徒会執行部を中心とした生徒の自主活動(学校祭をはじめ中学生への学校ガイダンスなど)が充実してきた。 ○ゴミの減量化や消費電力削減で大きな成果があった。環境委員等を中心に生徒主体の取組は改善の余地がある。また、ゴミの捨て方が徹底できなかった箇所改善が必要である。  ※校内美化を推進できた 生徒88.5% 保護者75.9% 教職員59.5%	○生活指導と結びついた体験的な教育活動の活性化 ○社会に参画する力の育成 ○生徒が主体となって取り組む学校環境の整備	○ボランティア活動への参加を奨励するなど、生徒が学校とは異なる集団の中で自己を表現する場面を設定する。 ○県教委事業(生徒と社会がつながる教育推進事業)と連携するなど社会人講師の活用を充実を図る。 ○日々の清掃活動や学校周辺清掃の徹底、ゴミの分別・減量化を引き続き推進する。(平成25年度との比較で6%減の実現) ○健康観察等の充実と適宜声かけ等親身な指導を推進する。	○1年生4月の人間関係育成研修は生徒からの評価も高く、効果が高かった。 ○進路先で生徒が困らないように、また相談できるように、センター試験後に専門家による講演等を計画し、生徒が社会を生き抜く力の育成を図った。 ○ボランティア活動に参加した生徒は約49名であった。 ○アンケートより「学校の校内美化を推進できた」と回答した生徒は約9割、教員約7割、保護者約8割であった。 ○社会人講師を活用した授業や特別活動を実施し、専門家(54名)から話を聴く機会を設定することができた。 ○ゴミの減量化について、平成25年度との比較で32.3%減(2月現在)を実現できた。  ※校内美化を推進できた	B
2. 学ぶ姿勢を確立して目指す進路を実現	○教科書等授業に必要なものをきちんと準備する等、授業を受ける構えができていること。 ○「進路目標を定め、その実現に向けて家庭学習を進めた」と回答する生徒の割合が5割を超えること。	○昨年度から放課後講習の改善、面談指導の充実を重点的に実施している。一方、部活動との両立に悩む生徒や学力不振者に対するきめ細かな指導が十分とはいえない面もある。 ○提出を義務づけられた課題等には取り組むが、自ら進んで学ぶ姿勢が今後も求められる。 ○「進路目標を定め、その実現に向けて家庭学習を進めた」の項目に「あてはまる」と回答した生徒は全体では24.9%であった。	○生徒の主体的で自発的な学習活動の確立 ○教科担当者による個別面談指導の強化 ○学習のつまづきを随時克服する体制の構築 ○週明けテストをはじめ校外模試等を大切にする態度の確立	○5分前行動を徹底し、授業開始と同時に授業が始まるという当たり前のことを徹底する。 ○主幹教諭等を中心とした個別面談を実施し、的確な進路指導を推進する。 ○校外模試・週明けテスト等について、指導監督体制を改善し、受験する態度や雰囲気づくりに工夫を図る。 ○放課後講習の細分化を具体化し、適宜受講生徒の状況を把握し、講習内容改善を推進する。	○授業開始と同時に授業が始まることについて、習慣化はできてきたが、一部チャイムが鳴っても着席できていない生徒が見受けられる。 ○アンケート「進路目標を定めその実現に向けて家庭学習を進めた」に「あてはまる」と回答した生徒は目標の5割を下回り約3割であった。ただし、「だいたいはあてはまる」と回答したを加えると約7割となった。 ○放課後、3年団では学習室を設定し、12月時点で30人前後の生徒が自主的に居残り学習を行った。個人成績のみではなく、受験生としての連帯感を強めることができるなど効果はかりあったと考えられる。 ○放課後講習をレベル別に設定したことにより、少人数での講習になることもあり、きめ細かな指導ができた。	○週明けテストの成績優秀者は、学期ごとに表彰するなど生徒のモチベーションを上げるような取組が必要である。 ○現在の生徒の状況から考える必要と学習場所を確保してやることは必要である。しかし、どこかのタイミングで自宅で行うことができるように検討する。 ○学習参観週間や公開授業の時など積極的に他教科の授業を参観する。
	○教員が授業内容や授業展開を工夫し、生徒の興味関心を高め、理解度を高めること。 ○タブレット端末等のICTを活用した生徒主体の授業を6割以上の教員が実践すること。	○授業参観週間中の授業実践・研究協議が教職員のスキルアップにまだ十分とはいえない。  ※授業理解(工夫) 生徒69.6% 保護者58.3% 教職員56.8% ※授業重視(授業研究充実) 生徒79.2% 教職員62.1% ※授業の内容理解 生徒69.6% 保護者58.6% 教職員56.8%	○アクティブラーニング型授業を取り込んだ授業研究会並びに授業参観週間での各教科代表による公開授業の定着 ○生徒が主体的に深く学ぶことができる授業の展開	○生徒の主体的で深い学びを実現するため、アクティブラーニング等授業法の研修を重ね実践に活かす。 ○英語多読等の特色ある学習指導方法の充実発展を図るとともに、外部講師等と連携した出前授業の機会を増やし、指導法の改善を図り、学習意欲を高める。 ○ICTを活用して生徒が主体となる授業方法の研究を進める。	○中国語、ハングルを選択している生徒が国際交流やコンテストに参加する等、意欲的に取り組む姿が見られた。  ※授業の内容理解 生徒70% 保護者69% 教職員66.6%	B
3. 部活動の振興を基軸としたチーム境高意識の高揚	○個々の能力や適性を発揮し、多くの部活動が全国大会等で活躍することで、学校の活力を高めること。 ○全国大会出場者100名を超えること。	○全国大会出場者は97名 ○硬式野球部の甲子園大会出場やヨット部の国体優勝、男女ハンドボール部や吹奏楽部などの全国大会出場など部活動が活性化している。  ※部活動充実 生徒96.3% 保護者87.4% 教職員86.5%	○部活動の充実による特色ある教育の実践 ○文武両道の活力があり地域の誇りとなる普通科高校として存在 ○県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信 ○地域のボランティア活動への積極的な参加 ○部活動において地域の人材の力を借りたり、生徒が小中学生に学習やスポーツを指導したりすることで地域の信頼を獲得	○主幹教諭等を中心に生徒が部活動と学習活動の両立を図ることができるよう、部活動だけに偏るような生徒については意識変更を図る。 ○全教職員が一丸となって組織的に部活動を奨励し、その振興を図る。 ○施設・設備等の充実を推進し、部活動にしっかり取り組める教育環境を整える。	○部活動加入率が高く、習熟クラスの生徒も部活と勉強の両立に努力していた。生徒は文武両道に対して前向きに頑張っているが、一部生徒は未だに部活動に偏っている。 ○アンケート「部活動を頑張った」に「あてはまる・だいたいはあてはまる」と回答した生徒は約8割であった。 ○全国大会出場者数(のべ人数)(運動部53名、文化部2名 計55名)  ※部活動充実 生徒83.3% 保護者89.6% 教職員79.5%	○高校総体の壮行式は選手はユニフォームで参加したり、成績報告会を開いたりする等、学校全体の士気が上がる新しい取組を検討する。 ○専門的な講師を招いて、部活動に対する関心・意欲の向上を図る。
	○小・中・高・大の連携により、人的交流や授業連携・研究交流を充実させ、教育活動の活性化を図ること。 ○キャリア教育やボランティア活動等をおして地域との連携を図ること。	○スクールプロジェクトやスクラム教育など異校種間交流(連携)が昨年度も充実、また保育実習等の進路実現に密接につながる取組も充実してきた。 ○島根大学等への大学訪問は大きな刺激となって進路意識・学習意欲の向上につながり効果が大きい取組になっている。 ○スクラム教育等をおして、異校種間の教職員連携が進んできた。  ※「スクールプロジェクト」小学生95% ※「中三学習会」中学生86.9% ※「大学等連携(大学訪問・企業訪問)生徒41.9%	○高大連携(大学・専門学校訪問など)などの異校種間交流(連携)をおして、異校種の児童・生徒・学生等と関わりを深め、価値観の異なる他者とのコミュニケーションを図る力を育成	○境高スクールプロジェクトを年6回実施する。 ○1年生キャリア研修では、地域の企業等から講師を招き、将来地域の発展に貢献する意欲を育てる。 ○境港地区における基礎学習・生涯学習の中心となるような未来の境高づくりを検討する。 ○キャリア教育全体計画に基づき、各事業の目的を明確化し、共通認識のもとで行う指導を徹底する。	○スクールプロジェクトでは部活動を通し、小学生に競技の特性を伝えたり学習で楽しくふれあったりすることができた。 ○キャリア教育では、1年生対象の企業から学ぶ新しい取組は、生徒も企業側もとても良い印象で終えることができ有意義なものとなった。  ○アンケート「学校のホームページは充実している」と回答した保護者は約8割であった。  ※学校HP充実 保護者81.6% 教職員69.2%	B
4. 人としての教育を重視し命の教育を充実	○PTA、同窓会等とも協力して、地域活動へ積極的に参加し、地域から期待される学校づくりを進め、チーム境高の意識が高まること。	○生徒の活躍やPTAの活動を随時HPに掲載してきた。 ○校外での活動(地域連携)充実も進んできた。  ※学校HP充実 保護者72.6% 教職員78.4%	○学校ホームページ(学校行事・PTA活動などを含む)の充実 ○地域や保護者と連携した開かれた学校を構築	○学校の情報を速やかに学校ホームページに掲載し、情報発信を展開する。 ○学校生活の基盤である良好な人間関係を育成し、家庭と連携して生徒の指導にあたることを徹底する。	○ボランティア活動、学校周辺清掃等、部活動などをおして、地域との連携が進んでいる。	○学校ホームページの部活動ページがあまり更新されないため、保護者や中学生や他校の生徒へのアピールのためにも更新しやすい環境を整備する必要があります。
	○自他を認め合う人間関係づくりにつながる取組を各分掌等が企画・実施すること。	○一部生徒の中に人権意識に欠ける言動があったり生徒が悩みを相談する場(機会)が不足していたりする現状がある。	○人間教育全体計画(境高システム)を作成し、各分掌等での取組を整理	○個別の指導体制の充実を図る。 ○既存の校内専門委員会でも対応しきれない事案に対応できる新たな委員会を立ち上げる。 ○連絡即対応のサイクルの徹底を図る。	○生徒情報を共有し、ていねいな指導、支援を意識し、連絡即対応がおおよそできている。一方で悩みをかかえている生徒の相談に対し、各部署の連携がでない場面もあった。 ○性や命に対する意識が希薄な生徒や、自己肯定感が低い生徒に対する指導のあり方を考える必要がある。 ○保健室と相談室の連携を密にし、事例があれば保健部を通じて管理職及び当該学年団へ報告して対応を図った。 ○生徒に専門相談機関からの情報や紹介を図ったり、鳥取県主催「命の授業」講演会を実施したりした。	C

評価基準 A:十分達成(90%以上) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(50%程度) E:目標・方策の見直し(40%以下)  
(※数値は「生徒・保護者・教職員等アンケート」結果の「良かった」等の割合。)